



－ 緊急取材 －

北朝鮮有事の 円相場シミュレーション



為替アナリスト

雨夜恒一郎

<http://www.gaitame.com/northkorea/>

リスクシナリオの整理

北朝鮮有事という場合、米国による北朝鮮の核開発施設を対象とした局部的な軍事攻撃が想定されるシナリオだが、今のところ市場はその確率はさほど高くないと考えている。シリアやアフガンのケースとは違い、同盟国に対する被害が甚大すぎるからだ。米国が北朝鮮を攻撃すれば、北朝鮮は必ず日韓に報復攻撃を行うと想定される。北朝鮮と国境を接する韓国はもちろん、日本の米軍基地（嘉手納基地、佐世保基地、岩国基地、横須賀基地、三沢基地など）も北朝鮮が保有するとみられる核ミサイルの射程距離に入ってくる。

これに対する日本のミサイル防衛は、イージス艦からの迎撃ミサイルと地対空誘導弾のパトリオットだが、実戦の経験はもちろんなく、北朝鮮が仮に多数のミサイルを同時発射した場合、すべてを撃ち落とせる保証はない。もし首都圏にミサイルが着弾すれば死者は数十万人にのぼるとのシミュレーションもある。

今後の展開

したがって、米国による北朝鮮への先制攻撃はリスクが高すぎてとれない選択

肢だ。歴代の米国大統領が結局北朝鮮を攻撃できず、金正恩政権が居丈高に構えていられるのも、ソウルと東京が人質に取られているからにほかならない。トランプ政権が先制攻撃に踏み切る可能性はこれまでの政権で最も高いことは間違いないが、その可能性は限りなく低く、北朝鮮のさらなる核開発や挑発行動を封じ込めるためのブラフにとどまる可能性が高い。米朝がブラフのやり取りに終始する限りは、リスク回避による円買いも限定的となるだろう。

有事の為替相場

だからこそ、もしも、米国が北朝鮮を空爆すれば、それはまさに驚天動地のサプライズとなる。為替市場ではまずリスク回避の円買いが先行するだろうが、日本に対する報復攻撃があれば円を買っている場合ではないから、長くは続かないはずだ。ドルと円はどちらも当事者国通貨なので、筆者なら円を売って資源国通貨や安全資産である金やスイスフランへ逃避するという行動をとるだろう。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、個人的な見解に基づく情報であり、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、雨夜恒一郎ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。